

別記様式第2号

会議の概要報告

会議の名称	佐野市行政改革懇談会
1 開催日時	令和元年8月21日(水) 13時30分～15時00分
2 開催場所	佐野市役所 委員会室(7階)
3 委員等の人数	17人
4 出席委員等の人数	14人
5 議題	(1) 第4次佐野市行政改革大綱実施計画の平成30年度取組実績について (2) 第4次佐野市行政改革大綱実施計画の平成30年度財政効果について
6 会議の公開・非公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 一部公開・非公開の理由
7 傍聴者の数	0人
8 会議資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料No.1) 第4次佐野市行政改革大綱 ・(資料No.2) 第4次佐野市行政改革大綱実施計画平成30年度実績一覧 ・(資料No.3) 第4次佐野市行政改革大綱実施計画の進捗状況 ・(資料No.4) 第4次佐野市行政改革大綱実施計画の財政効果
9 会議の概要 (発言の要旨)	<p>1. 市長あいさつ</p> <p>2. 会長あいさつ</p> <p>3. 議事</p> <p>議題(1) 第4次佐野市行政改革大綱実施計画の平成30年度取組実績について</p> <p>・事務局より議題について説明</p> <p><質疑等></p> <p>委員：進捗状況が89%とのことだが、目標指標が目標数値に至っていない項目もある。どのような判断基準としているのか。目標指</p>

標に達しない場合は進捗状況を一部変更ありなどにしないのか。また、それは各課の判断によるものか。

事務局：進捗状況に関しては実施スケジュールが目標通りとなっているかで判断をしています。各課の報告を受け、行政経営課で調整を行っております。目標指標が目標に達しない場合は別途検討を行います。

委員：進捗状況はスケジュールとのことだが、達成状況とは異なるということか。数値そのものの意味が分からないものもある。数値があった方がいいのかどうかは考えた方がよいのでは。

委員長：従来通りの表記の方法を変えることで、結果が分かりにくくなる一方で、この資料では意味が不明な部分もかなりある。

委員：行政経営課と担当課の温度差が数値の誤差になり、また、担当課によって数値をどう捉えるかということでも温度差があると感じる。

委員：行政改革を推進していくのであれば、個別ではなく、分野ごとの進捗状況など最終的な評価を統括部署として出すべきと考えるが、見解は。

事務局：数値化したものの達成度については、次に説明する財政効果額が総体的な金額としての指標の一つになると思います。

しかし、達成状況と進捗状況が異なるというのは適格なご意見でありますので、この会議では、目標指標に対する実績がどうだったかという視点で判断いただきたいと思います。

委員：各団体等に対する支援の適正化について、277件のうち増額、減額した2件ずつについての理由は。

事務局：増額の2件は健康増進課所管の健康増進事業等推進協力交付金と道路河川課所管の河川愛護会運営費補助金だが、千円、2千

円の増額でありほぼ変更はありません。減額の1件は草木ダム管理費の補助金ですが、水利権のある市町から請求された金額であり佐野市に裁量権はありません。もう一件は佐野市レクリエーション大会運営交付金ですが、5万円を補助金等の見直しの基準に基づき削減したものです。

委員：市有施設の計画的な見直しに関して、先日の小中一貫校の説明会では、統合を進める教育委員会と増設を進める学童保育所で連携が取れていないようだが、こういった方向性で進めるのか。

事務局：保有する施設をそのまま更新していくには2千億円が必要となり、それは現実的ではないため計画的に縮小を図るものですが、市有施設適正配置計画策定時には義務教育学校にしていく計画はなかったことから、目標である25%の延床面積縮減の中には入っていません。そのため、学校の縮減が進んだ場合、25%に上乘せされることとなります。しかし、廃校の活用方法によっては維持管理費がかかることとなりますが、その見込みはまだ立っていないため、先の話となります。

委員長：人口減少が進む中で同じものを同じように維持していくのは困難な一方、地域住民には喪失感が生じるため、そのバランスを取りつつ、将来はこのようになるという説明をしながら、リーダーシップを行政にはしっかり取ってほしい。

委員：施設の統廃合を進めていく中で、特に廃校の活用に関しては、全国に様々な事例があるため、それらを参考に進めてほしい。

委員：教育に関しては近隣市の例に追随することには賛成しない。

委員：行政が主催する説明会には、時間を持て余している人、その内容に詳しい、もしくは反対する人が参加すると聞いたことがあ

る。それでは最も影響を受ける利用者の意見が反映されないため、利用者が集まれるような方法を考えてほしい。

委員：市民の意見がどれくらい反映され、活かされていくのか疑問に感じており、市民の声を拾っていく姿勢で進めてほしい。

要望についてクレームと捉えるのではなく、部署ごとでなく市役所全体として意思統一してくれれば市民としても意見が言いやすくなる。

事務局：それらのご指摘についてはその通りだと思います。懇談会も開催していますが、利用される方、廃止に影響を受ける方の意見も聞いていく方法を考えていますが、30年間の計画のうち初年度であるため、まずは町会の方々のお話をお聞きし、その作業を続けていく中で、直接廃止等に関係がある方に来ていただけるような懇談会に変えていこうと考えています。

議題（2）第4次佐野市行政改革大綱実施計画の平成30年度財政効果について

・事務局より議題について説明

<質疑等>

委員：市税等収納対策の推進について、臨戸訪問は臨時職員が行っているのか。またその担当の人数は何人くらいか。

事務局：概ね3名から4名の臨時職員です。

委員長：歳入確保額が約2億円だが、栃木県では市税の収納率が一番高いと聞いている。合計額はどのくらいなのか。

事務局：平成30年度への滞納繰越額が約3億1千万円であったため、そのうちの2億円になります。

委員：歳出削減は概ね計画通りだが、歳入確保額は今年度についてはそうではないという認

識でよいか。

事務局：数値目標化されたものについてはそのとおりです。

委員：ふるさと納税制度の促進について、総務省の指導もあるとのことだが、計画通り増加させていく見込みはあるのか。また、市有財産の有効活用は準備等に時間を要したとのことだが、計画通りの見込みがあるか。

事務局：ふるさと納税に関しては、現在の状況から計画を下回っていくと思われま。計画を修正することについては考えたいと思いますが、今後財政効果額をお示しするときにご報告します。市有財産の有効活用については、この目標額を目指して取組を行っていきます。

委員長：各団体等に対する支援の適正化の6億というのは効果なのか、補助金の額なのか。また、次年度以降の金額の考え方は。

事務局：補助金の額であり、額が大きい理由としては市民病院の関係があるためです。次年度以降は29年度に対しての比較であり、年度ごとに削減額が累積されていきます。

委員：ふるさと納税制度について、目標額には達しなかったが計画どおり推進中とある。どのような政策をどのように調整してどのように計画を進めているのかが金額的にも見えない。計画が厳しい状況が分かっているながら調整されていないのはなぜか。

また、市有施設の計画的な見直しでは、令和元年度から3年度まで約10億円という大きい金額が同じく記載されているが、どのようなところを予定しているのか。

事務局：ふるさと納税制度については、都市ブランド商品を中心に目標額に近づけるように取組を行っています。

市有施設の計画的な見直しについては、それぞれの年度において解体を予定している

	<p>施設の更新費用についてバラつきがあるため、平準化した金額を記載しています。</p> <p>委員：各取組の結果を受けて、行政経営課としてはどのように指導していくのか。</p> <p>事務局：取組の結果を分析し、各課と協議を行っていきます。</p> <p>委員長：各取組を行った結果、どういったことを行っていくのか記載がないため、検討してほしい。</p> <p>・その他の質疑応答無し</p>
10 その他	<p>事務局：本日付議した内容のうち、資料No.4「第4次行革大綱実施計画の財政効果」については、9月議会の資料と併せて、議員配布し、報道機関に情報提供する予定となっています。</p>